



R.I. 第 2630 地区 高山中央ロータリークラブ WEEKLY REPORT

2008 ~ 2009 年度 高山中央 RC 会長テーマ 「ひとつの心で」

会長 三枝 祥一 幹事 足立 常孝 会報委員長 津田 久嗣

創立 1991 年 5 月 20 日

事務局 高山市花岡町 1-15 丸越商事 4F

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

例会日 毎週月曜日 PM12:30~

ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 778 回	48 名	42 名	35 名	-	83.33%
前々回 776 回	48 名	42 名	34 名	2 名	85.71%

<点 鐘> 会長 三枝 祥一

<ソング> それでこそロータリー

<会長の時間> 会長 三枝 祥一

リボン運動について

今、胸などにいろいろな色のリボンをつけて活動している人が増えています。

意味としては、ある運動の象徴としてリボンを身につけ、意思表示をする活動のことです。

どのようなものがあるかといえば、

オレンジリボン……子ども虐待防止運動

ピンクリボン……乳がん撲滅運動

レッドリボン……H I V・エイズ予防撲滅運動

ブルーリボン……北朝鮮による拉致被害者救援運動

グリーンリボン……環境保護運動

イエローリボン……青少年の自殺防止運動

シルバーリボン……知的・精神障害の人への偏見をなくす運動

ブラックリボン……政治によるインターネット上の自由の介入に反対する運動

パープルリボン……レイプなど暴力根絶運動

空色リボン……性同一性障害を理解する運動

バイオレットリボン……ホジキン病(がんの一種)患者の生活改善運動

<幹事報告> 幹事 足立 常孝

国際ロータリー第 2630 地区ガバナーより

・国際青少年交換 2009 ~ 2010

夏季派遣学生募集の案内

回答期限 2009 年 1 月 20 日(火)

*詳しくは国際奉仕委員長にお尋ね下さい。

桑名北ロータリークラブより

・創立 10 周年記念誌

<ロータリー情報委員会>

委員長 剣田 広喜



11月11日18時30分より、我が家において、IDMを行いました。出席者は会長・幹事・委員会メンバー・過去3年以内の入会者を対象に行いました。

IDMとは、Informal Discussion Meeting 家庭集会と言う意味です。最初は炉辺会議から始まり変わりながら IDMとなりました。

目的は1. 会員の方に広くロータリーを理解して頂く。

2. 新会員の教育と新会員が一日も早くロータリーに同化して頂く。

3. 会員宅で行うと言うことで、家族にロータリーを理解して頂く。

私は地区でセミナーをしておりますが、聞くだけでは20%・視覚に訴えて50%・ディスカッションをすると80%が記憶に残りますが、100%残るには、自らが勉強をして講師になりアウトプットすれば一番残るということで、新会員3名にロータリーが拡大し続け100年以上たった礎となった4名の功労者の方の説明をして頂きます。ポール・ハリスに付きましては、次回の例会にお話しますので残りの3名について話して頂きます。

<チェスリー・R・ペリー氏について> 新会員 中田 学

シカゴで生まれたロータリーが国際組織になったのに大変大きな役割を果たした人物です。

彼は国際ロータリーの初代事務総長であり、ロータリークラブ国際連合会の時代から事務総長を32年間務めた方です。シカゴ生まれの都会っ子で1908年シカゴRC入会



し「職業は社会に対する機会である」として職業奉仕の重要性を強調され、また初期のロータリーにおいてはその連合体の形成に大いに貢献されました。そもそも4人の会合から始まったRCは徐々に会員の数を増やしていきました。創始者のポール・ハリスは世界にロータリーが広がっていくことを望みましたが、当時のシカゴRCの会員の多くはその考えに賛同しませんでした。しかし、ポール・ハリスは諦めず徐々にシカゴからアメリカの都市へ、そして国境を越えて他の国へと広げ始めました。その中でチェスリーペリーが果たした役割については、ポール・ハリスは本の中で『チェスリーペリー氏がいなかったら、ロータリーに何ができたか。その人の出現はそれほど大きな意味を持っていた。チェスリーペリーはシカゴ・クラブの活動に大いに熱意を傾けていたとはいえ、ロータリーの運動を拡大していくことに関心を持つようになるまでには、しばらく時間がかかりました。しかし、そうなったとき、私は彼が本当にありがたいパートナーであることを知ったのです。チェスリーペリーが「世界中にロータリーを」と言う考えに転向したについては、ちょっと変わった経緯がありました。新しいシカゴ・クラブの会長になったものが、ロータリーを「世界に広げる」ことに賛成できなかったため、チェスリーペリーをクラブの拡大委員会の委員長に任命しました。私としては、シカゴ・クラブから総スカンを食うか、拡大委員会の新任委員長をもっと広い視野をもつように改宗させるか、どちらかをやらねばならないことになった訳です。そこで、ある日曜日にチェスリーペリーが暇な時間を見計らって、電話を掛けることになりました。二人の話し合いの間に、チェスリーペリーは「ねえ、ポール、君が考えている理想に比べると、シカゴ・クラブなんてどうでもいいなどと、どうして考えるのかね」と聞きました。私がそれにどう答えたのか覚えていませんが、これは容易ならぬ事態だと察して、私の考えを守るために、一斉射撃のように説明しました。チェスリーペリーはその時あまり多くを語りませんでした。私にとってはそれで十分でし

た。受話器を置いたとき味方ができた、もう大丈夫だと確信しました。そのすぐ後、彼と私は他の人からも助けをもらいながら、現在のクラブの連合会を作る計画にかかりました。チェスリーペリーは、ロータリークラブ全体の第1回大会を計画し、組織するのに大忙しになりました。チェスリーペリーは、肝どころをすべてつかまえて、万事を公平に評価する力を持っているように見えました。彼はロータリーを感情的にだけでなく、知的にも大切にしていました。私がひとりで戦う必要はもはやなくなりました。チェスリーペリーがいつも私の傍らに、いやいつも私の前に居てくれました。彼は闘志満々でした」と著書の中に書いてあります。大変信頼の厚い仲間・大切な仲間・強い絆の仲間であったようです。チェスリーペリーのロータリーでの25年間はすさまじく、土曜日曜は言うに及ばず、祝日も夜間もロータリーの為に働き続け、25年間の間に1回の休暇をとっただけだそうです。こうした貢献的な一人のロータリアンの努力によってロータリーは世界へ拡大していったのです。もし、チェスリーペリーがいなければ、今日のロータリーは無かったと言っても過言ではありません。ポール・ハリスは「ロータリーを設計したのは私ですが、実際にロータリーを作っていった施工主は、まさに事務局を担当したチェスリーペリー」だと言っております。以上が私の担当のお話です。今回この機会を頂きまして、創始の4人の経歴を調べることで、人となりロータリーの創始の精神に触れることができ大変勉強になりました。素晴らしい機会を頂きましてありがとうございました。

<アーチ・C・クランフについて> 下田 徳彦

4人の立役者のひとりアーチCクランフについて説明させていただきます。



ロータリー財団の父と言われ、ロータリー財団を築いた方です。1869年ペンシルバニア州カヌートビルの貧しい家庭に生まれました。日本で言うと明治の始めです。12歳のとき家庭が貧しいため学校をやめて、働くという家庭環境のなかで育った。16歳、材木会社に奉公で夜学に通いながら学び、やがてはその会社の社長を経てオーナーになって行きます。その後も銀行・造船会社の経営者として活躍し、42歳のとき、クリーブランドRCのチャーターメンバーとなり翌年会長になりました。強い思いで非常時基金の必要性を提唱しつつ、45歳で国際ロータリー理事に

なり、アーチ氏を書いた全ロータリークラブのためのRC定款・細則が採択された。46歳で国際ロータリー会長に就任して、強い思いであった非常時基金の必要性をロータリー基金として提唱し最初の寄付は、26\$50¢にとどめた。13年後、ミネアポリス国際大会で5000\$を超えた基金を、「ロータリー財団」と改めた。アーチ氏がグリーンブランドRCの会長に就任したときは、「寝てもさめてもロータリー」国際ロータリー会長に就任したときは、「全世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野で何か良いことをしようではないか」ミネアポリス国際大会では「我々はこの財団を今日明日の時点ではなく、何年何世紀の尺度で見つめるべきである。なぜなら、ロータリーは幾世紀にもわたる活動だからだ」と名言を残しています。このように100年の時を越えて、今も尚語り継がれるロータリー財団の意味とアーチ氏の厚い思いに触れることができました。ありがとうございました。

以上で私の説明を終わります。

<アーサー・F・シェルドン氏について> 長瀬 栄二郎

奉仕理念の提唱者 アーサー・フレデリック・シェルドンについて報告させていただきます。

ロータリーの職業奉仕の理念は、この方の考えから導かれたものということです。

(RIAFの公式ホームページより引用抜粋)

1868年5月1日、今から140年ほど前にミシガン州バーノンで生まれたシェルドンは、ミシガン大学の経営学部で販売学を専攻し修士課程をトップの成績で卒業しました。今でこそ、経営学はメジャーな学問ですが、当時は、経営を学問として捉えたり、さらに販売学などという分野に関心を持つ人は少なく、この分野における草分け的な存在だったと考えられます。その研究生活の中で、彼は19世紀における商売と、20世紀における企業経営は全く違うことを学びました。卒業後は、図書の訪問販売のセールスマンになり、素晴らしい営業成績をあげて、セールスマネージャーに昇進し、出版社の経営を任されるようになりますが、3年ほどでシカゴにビジネス・スクールを設立して、サービスの理念を中核にした販売学を教える道を選びます。

後日、ロータリーの職業奉仕理念の中核となった「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」に基づくサービス学を、科学として捉え、それを体系的に教えることが、シェルドン・ビジネス・スクールの方針でした。

ロータリーにおける職業奉仕の理念は、シェルドンの考え方を、そっくりそのまま受け入れ今日に引き継いでいるものであり、ほかの奉仕団体にはない、独自の奉仕理念です。

シェルドンは、ロータリーに入会する以前から、職業奉仕理念を説く活動をしていて、1910年の全米ロータリー連合会創立以降、職業奉仕理念を全国のロータリーに広めたシアトルやミネアポリスのロータリアンたちの多くは、シェルドン・ビジネス・スクールの卒業生でした。

シェルドンは、教育とは知識を教えることではなくて、

その人の能力を引き出し、それを成長させることであるという独特な考え方を持った教育者でもありました。

シェルドンが、どのような経緯でシカゴ・ロータリークラブに入会したかは、1906年の後半、シカゴ・クラブは重大な転機を迎えていました。1905年の創立以来、会員同士の親睦と物質的な相互扶助に重きを置いてきたシカゴ・クラブに、社会的奉仕活動をすべきだという意味を持って入会したドナルド・カーターに同調したポール・ハリスは、1906年12月に定款を改正して社会奉仕に関する項目を追加し、さらに会長就任と共に、クラブ運営方針を抜



本的に変更して、会員増強、拡大、社会奉仕の実践を提唱しました。

しかし、これまで会員に大きな利益をもたらしてきた物質的な相互扶助と、突然提唱された社会的奉仕活動の概念との乖離は大きく、反発する会員との間で激しい論争が起こり、そんな状態のなか、シェルドンはシカゴ・クラブに入会し、奉仕理念の提唱者として、ポール・ハリスの片腕となります。シェルドンに対するポール・ハリスの信頼は厚く、入会の翌々月には、情報拡大委員長に任命され、入会1ヶ月の新入会員であったにもかかわらず、多くの古参ロータリアンを前にして、彼の持論である「サービス学」を新しいロータリー理念として説きました。

しかし、シカゴ・クラブ内のバランスが崩れるなか、1808年10月、ポール・ハリスは任期半ばで会長を辞任し、シェルドンも情報拡大委員長の任を解かれます。その状況を憂慮したチェスレー・ベリーによって、当時16クラブまで拡大されていたロータリー・クラブの連合体として全米ロータリー・クラブ連合会を結成され、その組織にポール・ハリスとシェルドンは迎え入れられます。全米ロータリー・クラブ連合会が結成されると、シェルドンは実質的な職業奉仕委員会の初代委員長に任命されます。1910年8月15日から17日まで、シカゴのコンGRESS・ホテルで、第一回全米ロータリー・クラブ連合会の年次大会が開催され、この大会で、シェルドンやシアトル・ミネアポリスのロータリアンたちの働きかけによって、物質的な相互扶助の慣習から脱却して、職業倫理を高めるための最初の公式文書として、新たなロータリーの綱領が採択され、その第5条に「進歩的で尊敬すべき商取引の方法を推進すること」という項目が入りました。大会の最終日に開かれた晩餐会の席上、シェルドンは、かねてから彼が考えていた奉仕哲学に関するスピーチを行い、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉を始めて披露しました。

彼は、食うか食われるかという人間の本能をむき出しにした 19 世紀の利己的な経営手法を批判すると共に、単に自分だけが儲けようという商売から脱して、他人に対してサービスすることが、事業を成功させる方法であることを力説しました。20 世紀の実業人を成功に導く方法は、利益を他人とシェアするというサービス学を遵守することであると説き、その理念を端的に表す言葉として「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というモットーを発表したのです。

当時「奉仕」という言葉から思い浮かべることは、「神に対する奉仕」「国に対する奉仕」「主人に対する奉仕」といった程度で、事業における奉仕というまったく新しい概念を提唱したのはシェルドンが始めてでした。ロータリーが創立された当時、職業奉仕という言葉は存在していませんでした。さらに当時のロータリーには社会奉仕や国際奉仕という概念も存在していませんでしたので、シェルドンの奉仕理念は、原始ロータリーにおける一般奉仕理念として、現在の職業奉仕理念に引き継がれてきたものといえます。

ここで、シェルドンの唱える奉仕哲学の一部をご紹介します。

「あなたは何のために仕事をしているか」という質問をします。95%の人はお金を儲けるために仕事をしていると答えるでしょう。そう答えない人も、内心はそう思っている人が大部分ではないでしょうか。しかし、お金を儲けようと思って仕事をするのが、事業を失敗する一番大きな原因なのです。彼が述べた正解は、「自分の職業を通じて社会に奉仕をするために仕事をする」ことでした。また、同じ質問を医師や弁護士などの専門職の方に行ってみますと、金儲けのためと答える方は多分いないと思います。仮に内心そう思っても、そうとは言えない立場にあるのが専

門職の人たちです。元来、専門職というのは、自分の技術を社会に提供する、すなわち社会に奉仕をすることによって、生計を立てています。感謝の念を持った報酬を受け取ったとしても、自分から対価を要求することはできません。相手にお金がなければ、それも仕方がないことです。相手の身分が高かろうが低かろうが、報酬が高かろうが安かろうが、自分のもてる力を最大限尽くしながら、自分の職業上の技術を提供するのが当然の義務とされてきました。技術の提供を受けた人が感謝の念を持って、ある時は金銭で報酬を支払うかもしれませんが、ある時は感謝の言葉だけかもしれません。しかしながら、たとえ何の見返りがなくても、それをよしとするのが、専門職の人たちの職業観です。専門職の人と同じ職業観を、ビジネス界の人たちにも持ってもらうというのがシェルドンの考え方です。報酬を受けるために仕事をしているのではなく、職業を通じて社会に奉仕したから報酬を受けているのです。従って、社会に大きな奉仕をすれば、必ず大きな報酬が得られるのだし、少ししか奉仕をしなれば、少しの報酬しか得られないのです。

ロータリーでは社会に奉仕するための事業を実業と定義しています。実業であっても、社会に奉仕することを忘れて、自分の利益を優先した企業経営を行えば、その企業の将来は明るくありません。シェルドンは、持続して繁栄し発展しているいくつかの企業に共通して見られる特徴を、「サービス」と名づけています。

今回、シェルドンに関するご報告を通して、私自身、ロータリアンとしての職業理念を失うことなく、シェルドンのいうところの質の高い「サービス」を提供できるよう、取り組まなくては行けないと実感致しました。

< ニコニコBOX >

年末の多忙な日でしたが、一昨日の R I 会長賞受賞祝賀会には、多数の有志の皆様ご参加ご苦勞様でした。

理事役員一同

先日は、R I 会長賞受賞祝賀会を企画して頂き、多くの会員さんへ出席して頂きありがとうございました。本年度も R I 会長賞受賞に向けて一つ一つ項目をクリアして行こうと、会長代理から発表がありましたので、皆様よろしくお祈りします。

松之木 映一

12月13日に3回目の R I 会長賞受賞祝賀会がありました。松之木前会長・永家前幹事本当におめでとうございます。尚、その席上、三枝会長より「次の R I 会長賞を受賞するためのプロジェクトチームを立ち上げて必ず受賞せよ」との指示があり、会長代理を任命されましたのでよろしくお祈り申し上げます。

島 良明

先日は、会長・幹事さんに、R I 会長賞受賞祝賀会を開催して頂き、また上座に座らせて頂きありがとうございました。そして会員の皆様に感謝です。

永家 将嗣

先日は、会長・幹事さんご苦勞様でした。また、その前は劔田さん風邪気味の所お世話になりました。土曜日の思いがけない割り勘の戻りがありましたので、ニコニコへ

久々野 国良

12月22日のクリスマス例会では、会員の奥様方の若い美声での出演タイムもあり、バンドの演奏レベルが追いつかず必死に練習中です。汗をかきながら、一同一生懸命に演奏いたしますので、楽しい X`mas となるようご協力をお願い致します。

溝際 清嗣